日本糖尿病学会　国際交流委員会

IDF 2025 Global Village ブース出展報告書

作成日：2025 年 4 月 14 日
出張者：事務局　堀、金子

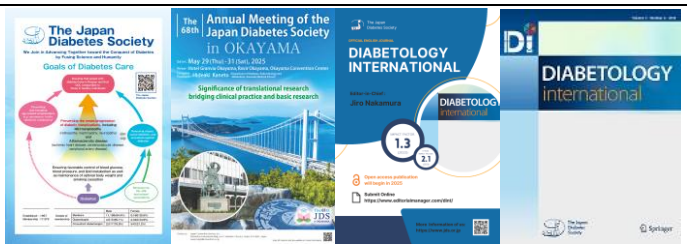
◆　スケジュール

出展先：International Diabetes Federation World Diabetes Congress 2025 in Bangkok, Thailand
設営日：2025 年 4 月 7 日（月）
公開日：2025 年 4 月 8 日（火）～10 日（木）10:00～17:00　※最終日 16:00 まで
会　場：ブース番号 EE11, Global Village, Exhibition Hall
Presidential Tour　：4 月 8 日（火）11:00～



◆　掲示物

ポスター	学会活動紹介（4 枚組） 第 68 回年次学術集会
配布物	学会活動紹介リーフレット 第 68 回年次学術集会チラシ 英文誌チラシ 英文論文別刷り 2 種、見本本 英語 inquiry 用ビジネスカード　（各約 50 部、全て英語版）
ノベルティ	DI クリアファイル（富士山柄）、折り紙
その他展示	IDF Western Pacific Region 旗（新・旧 2 種）



◆　担当者

事務局員 2 名、会員からの公募担当者 2 名

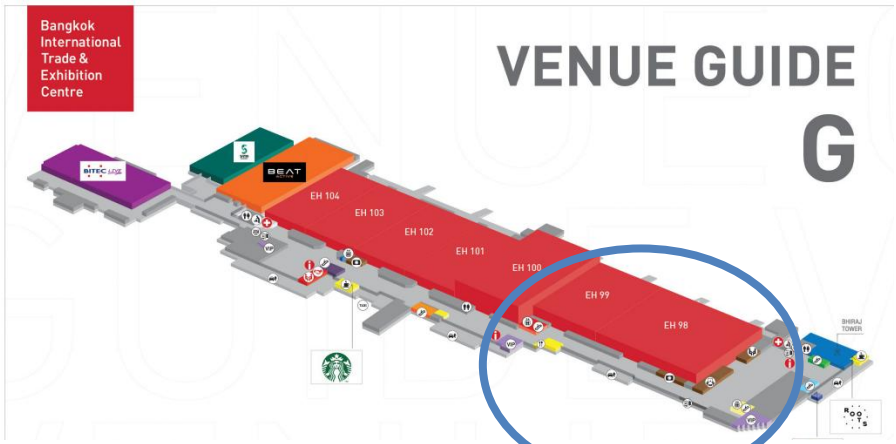
◆　**ブース担当者の公募**

若手会員の海外学会参加支援策として、日本糖尿病学会（以下 JDS）の理事・監事の推薦にてブース担当要員を募集した。3 名の応募があり、以下の 2 名が選出された。JDS から旅費・大会参加費の支援を行い、学会のブース駐在担当をしながら学会に参加した。

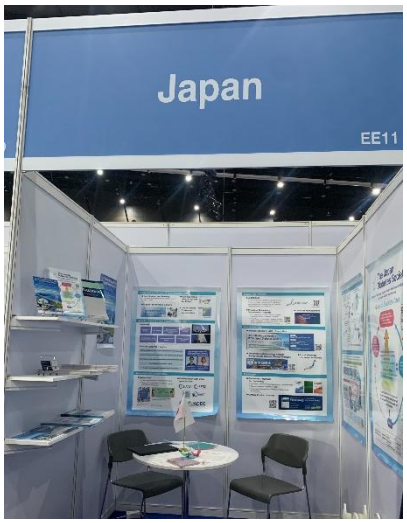
三井　絵里花会員	埼玉医科大学病院　内分泌内科・糖尿病内科　専攻医
西影　星二会員	神戸大学大学院医学研究科内科学講座　糖尿病・内分泌・総合内科学分野　糖尿病・内分泌内科学部門　博士研究員

◆　**ブースについて**

IDF 所属団体のブースはエキシビションホール（企業展示、ポスター、スポットライトステージなどのエリア）の中心に Global Village として設置され、計 95 団体のブースが設置された。本学会のブースは IDF 本部のブースの正面、Global Village 中心に位置し、出入りの多い位置にあった。



日本糖尿病学会ブース





◆ **展示・配布物への反応**

- 学会活動・日本の糖尿病の状況など General な情報をまとめた資料をポスター・ハンドアウトとしてそれぞれ作成し、メイン資料として質疑応答に使用した。
- IDF は患者団体の加盟も多いことから、研究よりも前述の学会活動・日本の糖尿病の状況・予防など、より General な情報への反応が高かった。
- ネットワーキングのための団体同士のコミュニケーションも活発であり、どの加盟団体も来訪者へのプチギフトを用意していた。本会は折り鶴を展示し、時には「願いの鶴」として来訪者と一緒に折り、プレゼントした。
- 日本は IDF Western Pacific Region (WPR／西太平洋地域)の議長国(議長:門脇孝理事)であったため、WPR 旗を併せて展示した。



◆ **来訪者について**

- 3 日間を通して絶えず来訪者があった。
- 1 日目の午前中は特に一般参加者に加え周辺の展示団体同士で来訪があり、大変混雑した。
- 確認できた来訪者の国籍は下記の通り。

アジア	インド、インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ベトナム、モンゴル、韓国、日本
中東	アゼルバイジャン、イラク、クウェート、トルコ、ウズベキスタン
アフリカ	エスワティニ、エチオピア、コンゴ、ボツワナ、マダガスカル、レソト、南アフリカ
ヨーロッパ	アイスランド、ギリシャ、ジョージア、ドイツ、ベルギー、モルドバ、ラトビア、北マケドニア
北アメリカ・中米	アメリカ、ニカラグア
オセアニア	オーストラリア、トンガ

◆ **ブース来訪者数（日別）**

4 月 8 日：約 100 名

4 月 9 日：約 40 名

4 月 10 日：約 40 名

◆ **来訪者からの主な質問**

【学会・学術集会】

- 本年・来年の年次学術集会の時期と場所
- 英語のプログラムはあるか
- 本年の学術集会の開催地である岡山にはどのように行けばよいか
- 学術集会は非会員・外国人でも参加できるか
- JDS には外国人も入会できるか
- 海外参加者へのトラベルグラントはあるか

【ガイドライン・学会誌・研究など】

- 最新のガイドラインがあれば知りたい
- 最新版の学会誌は閲覧できるか、無料で閲覧できるか
- 栄養に関する冊子はないか（栄養士からの質問）

【日本の糖尿病に関する情報】

- 日本の糖尿病の予防方法
- なぜ太っていなくても 2 型糖尿病になるのか
- 日本の糖尿病の患者数、1 型と 2 型の割合
- 日本の糖尿病での特殊な治療（special な治療）はあるか
- 食事療法について、JDS はどのような活動をしているか
- 患者へのメンタルヘルス治療はどんなことが一般的か
- 日本の糖尿病治療戦略（ストラテジー）
- 合併症の発症率
- 日本の糖尿病を持つ人の平均寿命と、糖尿病がない人の平均寿命の差

【デバイス・治療・保険・制度など】

- 日本の 1 型糖尿病が使用できるデバイスはどんなものがあるか
- 日本で使用できるインスリンポンプの種類と、自費か保険か
- 日本で使用できる CGM の種類と普及率（都市部と地方の差、自費負担額）
- 日本で使用できるインスリンの種類
- 経鼻インスリンは使用できるか
- 日本では糖尿病を持つ人へのインスリン供給は政府から行われているか
- 1 型糖尿病の保険制度（どのくらい保険でカバーされるか、年収による差）
- 日本の保険制度はどのようなものか

【スティグマ・患者会など】

- 日本の 1 型糖尿病のスティグマ環境は変化しているか
- 日本の 1 型の子どもの人数はどのくらいか
- JDS はどんな患者活動をしているか・患者会とどのような関わりがあるか
- 日本の患者会はどのような活動をしているか・メジャーな活動

【医師の教育・資格・制度など】
- 糖尿病を専門とする医師は甲状腺や内分泌疾患も診るのか
- 日本の医師の Basic degree は何か
- 日本の医療系大学の卒業までのシステムはどんなものか
- 日本の研修期間（residency）は何年か
- 日本の医療系の大学は何校あるか（約 90 校　※正確には 82 校）
- 日本の専門医の制度について
- 日本での糖尿病専門医を取るまでの期間

【国際連携・協力など】
- コンゴの若手糖尿病医師向けオンライン学習コンテンツはないか
- 教育プログラムで海外の人が閲覧できるものはないか（日本語以外はないか）
- IDF の若手リーダーを募集中
- JDS から若手支援（リソースや知識の共有）は可能か
- 日本へ交換留学できるか

【その他】
- 日本の平均寿命
- 日本の平均結婚年齢

◆ **その他**
- IDF には患者団体の加盟も多く、口頭にて JADEC（糖尿病協会）などとの協力体制についても説明する機会が多かった。糖尿病を持つ人や一般社会への活動について資料に取り入れる必要がある。
- 一昨年より導入している法被はアイキャッチが非常に高く、他団体においても民族衣装（上着やスカーフなど）を着用している団体もあった。
- 学会の活動紹介、糖尿病学全般を含めて公募したブース担当の若手会員（臨床研究・基礎研究の各 2 名）が主に来訪者の対応をした。今後もブースにおいて、若手会員の活躍が期待できる。
- ブース担当の若手会員は、事前に打ち合わせや資料共有を実施し、学会活動の知

識を深めたうえで参加した。

- 若手会員の担当時間を考慮し、事務局員の人員配置・滞在日程を軽減した。（経費削減）

◆ **今後に向けて**

- 日本人の参加者が少ない印象があった。海外学会への参加支援施策や、開催の広報活動を継続する。
- 学会活動紹介資料は、用意した 70 部が 2 日目で配布終了したため、増版が必要。
- 年次学術集会の開催情報は直近のみではなく 2 年後まで情報があるとよい。
- 人員配置、滞在日程の見直しで引き続き滞在経費の最適化を図る。

以上